

看板業で平和運動貢献

矢白別演習場内「憲法違反」の字塗り替え

「看板という『思いを見える形にする仕事』で、平和運動に貢献できれば」。北海道・釧路民主商工会(民商)の齋藤正一(71)副会長(71)は先ごろ、道東に広がる国内最大の自衛隊の演習場、矢白別演習場の民有地にある「D型ハウス」(倉庫などに使用するカマボコ型の建物)のペンキをボランティアで塗り替えました。齋藤さんの手記を紹介します。

手記 北海道・釧路民商副会長 齋藤 正一さん



齋藤さん(右)と、矢白別平和資料館を「育てる会」の佐々木孝雄会長

演習場内にある矢白別平和資料館を「育てる会」のスタッフ会議で、「『自衛隊は憲法違反』と書かれたD型ハウスのさびをきれいにしたい」との話があり、土地建物を管理する「一般社団法人ピース矢白別」に材料代を負担してもらい、ボランティアで塗り替え作業することになりました。計8日間の作業で、終

農地守る運動に共感し

わりの2日間は「育てる会」の佐々木孝雄会長(75)に手伝ってもらいました。

1952年、農業を志した開拓者(若者たち)84世代が矢白別にやって来ました。その一人が岐阜県から入植し、2009年に亡くなった川瀬牧場の故・川瀬 汎二さんであり、川瀬さんと共に最後まで演習場内に残った故・杉野芳夫さんでした。

1962年、防衛庁(当時)は、開拓農民を札束で買収。離農を強要し、追い出しました。

87年には、自衛隊が一夜にして、川瀬宅「16町歩」



作業中の齋藤さん。「自衛隊は憲法違反」の字も鮮やかな赤色になったD型ハウス

別海町、厚岸町、浜中町にまたがる陸上自衛隊の矢白別演習場(総面積約1万6800畝)の民有地に建てられた平和資料館。国側による土地買収を拒否し、この地で生涯を生き抜いた「北の反戦地主」の故・川瀬 汎二氏(1927〜09)が守り抜いた土地を「一

社」ピース矢白別」が所有権を移転・管理し、矢白別の平和運動の歴史を後世に伝え、今後の平和運動を力強く発展させるべく2019年にオープンした。夏には「矢白別平和盆おどり大会」の会場になり、自衛隊の実弾演習などの監視行動などが続けられている。開館期間は5〜10月(11〜4月は冬期休館)。

2017年12月3日には、前出のピース矢白別が発足。代表理事に浦舟三郎さん、平和美術館館長に彫刻家の二部黎さんを選出しました。

19年6月15日には、矢白別平和資料館が開館。館長の二部さん、事務局長の倉谷あみさんが資料館を守りながら生活しています。

地元では、ピース矢白別を中心に、矢白別平和委員会、矢白別平和公園クラブ、



D型ハウスに書かれた日本国憲法前文と第2章

私は、ピース矢白別の立て看板と矢白別平和資料館の看板を製作したことから「育てる会」の監事として運営に携わり、メンバーや住民との交流を通して平和の大切さを痛感しました。これからも、看板という「思いを見える形にする仕事」で平和運動に貢献できればと思っています。



D型ハウスに描かれた演習場の地図(資料より)

「全国商工新聞(週刊)」に、矢白別平和資料館を「育てる会」運営スタッフ(監事)齋藤正一さんの手記が掲載されましたのでご紹介いたします。

(なお、記事本文中5段8行目の「館長の二部さん、事務局長の倉谷あみさん」は、「『育てる会』事務局長の二部、会計の倉谷あみ」ですので、ここに訂正させていただきます。)

2023年1月1日 「育てる会」事務局